

シグマ委員会・核データ評価研究グループ年表

(2013年3月27日改訂)

○は月が不明な項目。日が分かるものは()内に日を示した。「シグマ委員会関係」には、シグマ委員会と核データセンター(核データ評価研究グループ)関係の事項と主催した会合を、「関連事項」にはそれ以外を記した。関連国際会議は、主要なものだけとした。

年	月	シグマ・核データ評価研究G r 関係	月	関 連 事 項
1963 昭 38	1	昭和 38 年度原子力平和利用研究委託費(核定数に関する試験研究のため)を受けるため、日本原子力学会に「シグマ委員会」の設立準備(19, 26 日 対策小委員会)	1	武蔵工大研究炉臨界(30日)
	1	日本原子力学会理事会「シグマ(臨時)専門委員会」設置を承認(28日)	5	IAEA の INDSWG 第 1 回会合(27~31日、Vienna)に出席
	2	原研「シグマ研究委員会」設置(28日)事務局は核物理第1研究室	8	日本原子力船開発事業団発足(17日)
	2	日本原子力学会「シグマ専門委員会」第1回会合(14日)高速グループ、共鳴グループ、熱中性子グループにより、活動開始	8	原研 JPDR 臨界(22日 12:41)
	4	日本原子力学会「シグマ(臨時)専門委員会」設置	10	原研 JPDR、初の原子力発電試験成功(26日)
	○	国内研究機関の設備リスト作成	○	原研 IBM7044 導入(主記憶 32kW)
	○	ELIESE, STEVE 等の理論計算コード作成、熱中性子散乱断面積計算コード作成、共鳴パラメータの収集を開始	○	英国、AWRE Aldermaston と AEE Winfrith で評価済核データライブラリーを編集(1960年から)
1964 昭 39	2	「核定数」は「核データ」と言い替えることにする	4	日本、OECD に加盟
	4	CINDA グループ発足	5	ENEA/CCDN(中性子データ編集センター)発足
	○	データシートによるデータ収集を開始、1969年3月まで継続する	5	IAEA による初めての国内原子力施設査察
	12	炉定数グループ発足(22日第1回会合)	6	京大炉臨界(25日)
			○	IAEA、Nuclear Data Unit ができる(現

年	月	シグマ・核データ評価研究Gr 関係	月	関連事項
	12	日本原子力学会企画委に核データセンター設立について説明		Nuclear Data Section (NDS))
1965 昭 40	4 6 8 10	データシートによる文献収集を本格的に始める 日本原子力学会企画委「シグマ特別専門委員会」設置を承認(15日) 「高速中性子断面積研究会」(24~26日、原研東海) 日本原子力学会「シグマ特別専門委員会」設置 ○ 熱中性子散乱断面積の評価開始(～1968年まで) ○ 国内研究機関の設備リスト改訂	1 2 5 5 6 9 12	原研 JRR-4 臨界(4日3:15) 日本、OECD/ENEA に準加盟(23日) 原電東海炉臨界 EANDC 第8回会合(Los Alamos) に出席 日本、EANDC のメンバーとなる 第4回 INDSWG 会議(10~17日、東京) 「Nuclear Data, Section A」創刊 ○ ENDF フォーマットが考案される
1966 昭 41	3 3 6 8 9 11	『JNDC ニュース』創刊 EANDC へのプログレスレポート作成、以後毎年作成 原研 JPDR 関係者からの要請により、軽水炉燃焼計算用炉定数作成(～8月まで) 「第2回高速中性子断面積研究会」(18~20日、原研東海) 日本の測定要求リストまとめる C の全断面積評価開始(国内初の核データ評価) ○ PROF GROUCH 等の炉定数作成コード作成	1 2 3 6 10	日本 ENEA/CCDN と ENEA/CPL に加盟 「Nuclear Data, Section B」創刊 Conf. Neutron Cross-Section Technology(22~24日、Washington) 米国、CSEWG の第1回会合 1 st IAEA Conf. Nuclear Data for Reactors(17~21日、Paris) ○ 西独、KEDAK-1 公開(KfK-120)
1967 昭 42	○ 7 7 ○ ○	「核データセンター構想」について検討 NAIG、MAPI、日立から原研理事長に核データセンター設立要望書提出(20日) 日本原子力学会より原子力局長宛に「核データの収集・整備の機関設立に関する要望書」出る(25日) ○ 14 MeV 中性子による反応断面積評価を行う ○ UKNDL と ENDF/B を入手	1 1 4 4 7 10 10 ○ ○	理研サイクロトロン完成(25日) フランスの高速増殖炉 RAPSODIE 臨界(28日) 原研大洗研設置 原研 FCA 臨界(29日) 原研、炉物理研究委員会設置(16日) 動燃事業団発足(2日) IAEA 事務総長 INDC の設置を認める ○ 英国、UKNDL-67 公開 ○ 「Table of Isotopes, 第6版」発行

年	月	シグマ・核データ評価研究Gr 関係	月	関連事項
				○ 米国、国立断面積センターNNCSC が作られる
1968 昭 43	2 3 3 6	「中性子断面積研究会」(15~17日、原研東海) 熱中性子散乱に関する文献目録出版 熱中性子炉用炉定数 JNDC セット No.1 作成 原研物理部に「核データ研究室」設置(1日)	1 2 3 3 5 7	西独、原子力船オットーハーン号就航 4センター設立に関する打合せ(Saclay) 2 nd Conf. Nuclear Cross-Sections and Technology (4~7日、Washington) 原研 JMTR 臨界(30日) INDC 第1回会合に出席 米国、ENDF/B-I 公開
		○ 熱中性子散乱断面積の評価終了		○ CCDN、核データ測定の要求リスト(RENDA)作成開始 ○ 西独、KEDAK-1の一部(14核種)公開(KfK-750) ○ 英国、UKNDL-68(79核種+78FP核種)
1969 昭 44	2 5 10	「第2回中性子断面積研究会」(13,14日、原研) 「核データ情報・評価専門部会」、「炉定数専門部会」発足 高速炉用炉定数 JAERI Fast Set 完成	5 6	米国高速実験炉 SEFOR 臨界(3日) 原子力船「むつ」進水(12日)
				○ 原研 FACOM 230-60 を導入(主記憶64kW) ○ EXFOR フォーマットが作られる
1970 昭 45	○ ○	ENDF/B-II 入手 評価作業開始($^{238}\text{U}(n, n')$, Cr, Fe, Ni の捕獲断面積)	3 6 7 8	原研 JRR-1 解体(31日) 2 nd IAEA Conf. Nuclear Data for Reactors (15~19日、Helsinki) 4センター組織によるデータの交換開始 米国、ENDF/B-II 公開(53核種)
				○ 西独、KEDAK-2 公開(20核種)
1971 昭 46	3 4 5 12	熱中性子炉用 FP 炉定数完成 「核データ情報・評価専門部会」は「核データ専門部会」となる 「JAERI Fast Set の作成」が日本原子力学会特賞受賞(27日) JENDL 0次版の案検討	3 4 7	3 rd Conf. Neutron Cross Sections and Technology (15~17日、Knoxville) 東大「弥生」臨界(10日) 動燃、英AEAとMORZART計画調印(8日)
		○ 重核、構造材核種の核データ評価開始 ○ FP核種の核データ評価開始 ○ 評価済核データの処理コード、実験デー		○ 原研 FACOM 230-60 増力(主記憶256kW×2) ○ RENDA が IAEA に移り、WRENDA となる

年	月	シグマ・核データ評価研究Gr 関係	月	関連事項
		タ格納検索システム作成開始		
1972 昭 47	3 11	JENDL-0 次版案確定、JENDL-0 WG 発足 (17 日) JAERI Fast Set の基礎データの格納開始 「第 3 回中性子断面積研究会」(9~11 日、原研) ○ Safeguard 核データリクエストの作業を検討 ○ 28 FP 核種のデータ評価終了 (中性子エネルギー100 eV~15 MeV)	4 5 8 12	ENEA が NEA と改名 (20 日) 日本が NEA への正式加盟決定 (9 日) 原研増力リアック完成 (8 日) ソ連の高速増殖炉 BN350 臨界 (25 日) ○ 京大炉リアック増力 ○ 米国、ENDF/B-III 公開 (120 核種)
1973 昭 48	4	「燃料計量核データ専門部会」発足 ○ 捕獲断面積計算コード CASTHY を作成 ○ 核データ作図用コード SPLINT を作成 ○ JENDL-1 作成方針についての議論を重ねた	8	フランスの高速増殖炉 PHENIX 臨界 (31 日) ○ 英国、UKNDL-73 公開
1974 昭 49	3 3 4 6	第 17 回 EANDC 会合 (25~29 日、東京) 「熱中性子炉用核分裂生成物炉定数の作成」が日本原子力学会技術賞受賞 (31 日) 崩壊熱核データ WG 発足、FP 崩壊熱の評価開始 JENDL-1 編集グループ発足 (14 日) ○ JENDL-0 完成	2 3 8 9 11	米国高温ガス炉フォートセントプレイン炉臨界 放医研医療用サイクロトロン完成 (31 日) 原子力船「むつ」原子炉臨界 (28 日) 原子力船「むつ」放射線もれ (1 日) 国際エネルギー機関 (IAE) 発足 (18 日) ○ ENDF/B-IV 完成 ○ 北大で、荷電粒子核反応データベースの開発が始まる
1975 昭 50	3 9 12	27 FP 核種データ再評価終了 (10^{-5} eV~20 MeV) 日本原子力学会会長より原子力委員長宛に「核データ整備の専門機関設置に関する要望書」出る (12 日) INDC 議長より原子力委員長宛に手紙「Japanese Nuclear Data Center」(17 日) ○ ^{241}Am の核データ評価 (TRU 核種の評価の開始) ○ JENDL-1 の編集作業	1 2 6	米国、AEC 廃止、エネルギー研究開発局 (ERDA) と原子力規制委員会 (NRC) が発足 (19 日) 米国、ENDF/B-IV 公開 (271 核種) 原研 NSRR 臨界 (30 日) ○ EANDC, EACRP が NEANDC, NEACRP となる ○ 原研 FACOM 230-75 導入 (主記憶 1024 kW $\times 2$) ○ 西独、KEDAK-3 の一部公開 ○ IAEA/NDS、荷電粒子とガンマ線核データの

年	月	シグマ・核データ評価研究G r 関係	月	関 連 事 項
		○ 炉定数作成コード PROF GROUCH G-2 開発		ネットワークを作る
1976 昭 51	4	「核データ研究室」が「原子核データ室」として認可組織となる	○	核構造データの評価 (mass-chain 評価) が国際協力による評価体制で行われるようになる
	4	「核分裂生成物の核データライブラリーの作成と評価」が日本原子力学会技術賞を受賞 (2 日)	○	米国、NCSNC が国立核データセンター (NNDC) になる
	8	『JNDC ニュース』を 37 号より『核データニュース』と改題		
	10	日本原子力学会で informal meeting 開催 (4 日、原研東海) 以後、(核データ・炉物理) 合同特別会合として継続している		
		○ JENDL-1 編集終了		
		○ JENDL-1 のベンチマークテストを行う		
		○ JNDC FP Fast Reactor Constant System 完成		
		○ 「核図表」第 1 版作成 (1977 年 2 月発行)		
1977 昭 52	3	JENDL-1 完成 (72 核種の核データを収録) (31 日)	4	カーター大統領、新原子力政策に関する声明 (7 日)
	5	『核データニュース』に定期刊行物としての番号 (ISSN) が付く (通巻 39 号より)	4	高速増殖炉「常陽」臨界 (24 日)
	7	「原子核データ室」が「核データセンター」と改名された (1 日)	9	原研「原子分子データ研究委員会」発足 (1 日)
	7	専門部会組織再編。「核構造・崩壊データ専門部会」発足 (15 日)	10	米国エネルギー省 (DOE) 発足 (1 日)
		○ Mass chain 評価に参加 (A=118~129)	12	NPT 保障措置協定発行
		○ シグマ研究委員会規約改定	○	西独、KEDAK-3 の一部公開 (46 核種となる)
		○ JENDL-1 公開 (秋)		
		○ 34 FP 核種のデータ評価終了 (JENDL には未格納)		
		○ JENDL-2 計画作成、評価作業開始		
		○ 遮蔽炉定数作成コードシステム RADHEAT-V3 完成、遮蔽用炉定数 JSD100 を作成		
1978	12	「1978 年核データ研究会」(20, 21 日、原	1	OECD/NEA Data Bank 発足

年	月	シグマ・核データ評価研究Gr 関係	月	関連事項
昭53		<p>研東海)以降毎年開催</p> <p>○ 会話型核データ評価システム NDES を作成</p>	<p>3 新型転換炉「ふげん」臨界 (20日)</p> <p>4 動燃と米国 DOE による日米共同大型高速炉臨界実験 (JUPITER Phase I) 実験開始 (~1979年9月まで)</p> <p>9 Int. Conf. Neutron Physics and Nuclear Data for Reactors and Other Applied Purposes (25~29日、Harwell)</p> <p>11 「第21回 NEACRP 会合」(6~10日、東海)</p> <p>○ 「Table of Isotopes, 第7版」発行</p> <p>○ 米国 ENDF/B-V 完成。一部のデータ (256核種) を除いて非公開となる</p>	
1979 昭54	<p>3 日本の Mass chain 評価結果 (A=121) が「Nuclear Data Sheets 誌」に載る</p> <p>11 JENDL-2B 完成。JUPITER 実験の解析に供する</p> <p>11 「JENDL-3 検討小委員会」発足 (16日)</p> <p>12 「1979年核データ研究会」(10,11日、東海)</p> <p>○ JENDL-3 計画の検討開始</p>	<p>3 米国、TMI 原発で事故 (28日)</p> <p>10 Int. Conf. Neutron Cross Sections for Technology (22~26日、Knoxville)</p> <p>○ Nuclear Reaction Data Center Network (NRDC)ができる</p>		
1980 昭55	<p>12 「1980年核データ討論会」(10,11日、東海)</p> <p>○ 「核図表 1980年版」作成 (1981年2月発行)</p> <p>○ Fe 体系の 14 MeV 中性子漏洩スペクトルに対する JENDL-2 のテスト結果から、二重微分断面積の重要性が指摘される</p>	<p>○ 原研 FACOM M-200 導入</p>		
1981 昭56	<p>1 「JENDL-3 検討小委員会」の答申が出る (16日)</p> <p>11 「1981年核データ研究会」(26,27日、東海)</p> <p>○ JNDC FP 崩壊データファイル第1版完成 (1172核種の崩壊データを格納)</p>	<p>3 原研 FNS 完成 (30日)</p> <p>7 米国レーガン大統領、核不拡散と平和利用協力に関し声明発表 (16日)</p> <p>8 (財) 原子力データセンター発足 (1日)</p> <p>○ NEA Data Bank、JEF-1 の編集開始</p> <p>○ 英国、UKNDL-81 公開 (UKNDL の最終版、82核種+197 FP 核種)</p> <p>○ ENSDF の管理が ORNL から BNL/NNDC に移る</p>		

年	月	シグマ・核データ評価研究G r 関係	月	関 連 事 項
				○ 阪大の強力 14 MeV 中性子工学実験装置「オクタビアン」による二重微分断面積の測定開始
1982 昭 57	5 6 11 12	シグマ特別専門委員会内規改訂 (7 日) 医学用原子分子・原子核データ WG 設置、 医学用データの検討を開始 (4 日) 「1982 年核データ研究会」(24, 25 日、東 海) JENDL-2 公開 (89 核種のデータを収録) ○ JENDL-3 の評価作業開始	8 8 9	原研タンDEM加速器完成 JUPITER Phase II 実験開始 (～1983 年 5 月まで) Int. Conf. Nuclear Data for Science and Technology (6～10 日、Antwerp)
1983 昭 58	3 11	「核分裂生成物崩壊熱の実験的および理 論的研究」が日本原子力学会論文賞受賞 「1983 年核データ研究会」(30 日～12 月 1 日、東海) ○ JENDL-2 の改訂、ファイルの完全化作業 ○ JENDL-3 のための評価作業 ○ JENDL-3PR1 作成 (主要 8 核種のデータ収 録) ○ JNDC FP 崩壊データファイル第 1.5 版完成	2 5 6 10	原研 JT-60 本体組立開始 (22 日) 高速炉「もんじゅ」設置許可 (27 日) EC の核融合実験装置 JET 運転開始(25 日) 米上院、クリンチリバー増殖炉予算を否 決、建設計画中止 (16 日) ○ 西独、KEDAK-4 公開
1984 昭 59	3 3 10 11	第 24 回 NEANDC 会合 (12～16 日、原研東 海)、NEANDC Topical Conf. (14 日) JENDL-2 改訂版完成 JENDL-2 のための FP 100 核種の評価終了 「1984 年核データ研究会」(13～15 日、 東海) ○ 「核図表 1984 年版」作成 (1985 年 3 月発 行) ○ Mass chain 評価、A=118～129 の評価を終 了し第 2 回評価作業に入る ○ 核種生成量評価コードシステム COMRAD と 関連データライブラリー完成	10 12	西独、KEDAK-4 の修正版公開 (KEDAK の最 終版、57 核種) 原研 JT-60 通電試験開始 (10 日) ○ NEA Data Bank、JEF-1 完成、JEF-2 の作成 開始 ○ 原研 FACOM VP-100 導入 ○ 原研 FNS を用いた日米核融合協力研究開 始
1985 昭 60	3 3	JENDL-3PR2 作成 「評価済核データライブラリーJENDL-2 の完成」が日本原子力学会特賞受賞 (28	3 4	つくば科学万博開幕 (17 日～9 月 16 日ま で) 原研那珂研設置

年	月	シグマ・核データ評価研究Gr関係	月	関連事項
		日) 7 「核融合ニュートロニクスにおける核データ検討会」(23~25日、原研東海) 11 「1985年核データ研究会」(12~14日、東海)中国とインドネシアからの参加あり 12 JENDL-2のための100FP核種データの最終編集終了。JENDL-2は格納核種181となる		4 原研JT-60ファーストプラズマ達成(8日) 5 Int. Conf. Nuclear Data for Basic and Applied Science (13~17日、Santa Fe) 9 フランス高速増殖炉 super PHENIX 臨界(7日) ○ NEA Data Bank、JEF-1を加盟国に公開 ○ 中国、CENDL-1完成(37核種) ○ 科技庁、近隣諸国との原子力研究交流制度開始
1986 昭61		3 JENDL 特殊目的ファイルの答申が出る(14日) 11 JENDL-3以降の計画検討委員会の答申出る(7日) 11 「1986年核データ研究会」(26,27日、原研東海)		3 動燃、日米大型炉遮蔽ベンチマーク実験(JASPER)開始(1992年9月まで) 4 ソ連、チェルノブイリ事故発生(26日)
1987 昭62		11 「1987年核データ研究会」(12,13日、原研東海) ○ JENDL-3Tの編集・積分テスト ○ 標準炉定数(JSSTD)の作成開始 ○ (α, n)反応データファイルの作成開始		1 JUPITER Phase III 実験開始(~1987年12月まで) 4 日本原子力学会「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会発足 9 原研JT-60 臨界プラズマ条件の目標領域に達成(17日) 11 IAEA/NDSがFENDLの作成を決める ○ ソ連、BROND-1を公開開始 ○ 「群分離・消滅処理技術研究開発長期計画(通称オメガ計画)」策定
1988 昭63		5 「Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology」(30日~6月3日、水戸) 9 JNDC FP崩壊データファイル第2版完成(1227核種の崩壊データ格納) 12 「1988年核データ研究会」(8,9日、原研東海)シグマ委員会25周年がトピックスとなる		1 JUPITER IO 実験(~1988年2月まで)。この実験で動燃と米国DOEとの日米大型高速炉臨界実験終了 2 日本、国際熱核融合実験炉(ITER)計画参加決定(5日) 3 原研BITNETに加入 9 Int. Reactor Physics Conf. (18~22日、Jackson Hole)

年	月	シグマ・核データ評価研究Gr 関係	月	関連事項
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「核図表 1988 年版」作成 (1989 年 6 月発行) ○ JENDL 放射化断面積ファイルのための本格的評価作業開始 ○ 簡易入力核反応断面積計算システム SINCROS-I ができる 		
1989 平元	4 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> 核データ専門部会改組、光核反応データ、荷電粒子核データ、PKA スペクトルの評価を開始 JENDL-3 完成 (171 核種のデータを収録) 「1989 年核データ研究会」(16, 17 日、原研東海) JENDL-3 公開 (12 日) 	3 4 8 10 ○	<ul style="list-style-type: none"> 低温核融合の論文発表 動燃と原電「大型高速炉用修正炉定数の研究」開始 (～1992 年 3 月まで) 日本原子力学会「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会、「原子炉崩壊熱とその基準」発表 OECD/NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ (WPEC) 発足 核分裂発見 50 周年
1990 平 2	11 12 12 ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 「1990 年核データ研究会」(29, 30 日、原研東海) アジア地域シンポジウムと位置づけ、中国の研究者を招待 JENDL-3.1 完成 (172 FP 核種のデータを追加し、全格納核種は 324 となる) 「核融合炉用核データ専門家会議」(20, 21 日、原研東海) JENDL-3 の核融合炉への適用性検討 ESNIT 計画のため、50 MeV までの核データ評価を開始 SINCROS-II ができる 	1 3 4 6 9 ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 米国、ENDF/B-VI 公開開始 (26 日) 原研新 JRR-3 臨界 (22 日) Int. Conf. Physics of Reactors (23～27 日、Marseille) NEA Data Bank、JEF-2 完成 (309 核種) 原研 JPDR 原子炉压力容器解体撤去完了 (28 日) 原研 JT-60U 運転開始 IAEA/NDS, IRDF-90 を編集
1991 平 3	3 7 7 10 10	<ul style="list-style-type: none"> 「原子炉崩壊熱基準の作成」が日本原子力学会技術賞受賞 JENDL Dosimetry File 91 完成 JENDL Gas Production Cross Section File 完成 「第 1 回高エネルギー核データ専門家会議」(3, 4 日、原研東海) JENDL-3 第 2 改訂版 (JENDL-3.2) 作業開 	3 5 12 ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 原研、評価済原子分子データライブラリー JEAMDL-3 完成 Int. Conf. Nuclear Data for Science and Technology (13～17 日、Juelich) NEA の改組、第 1 回 NEANSC 会合 (18, 19 日、Paris) 中国、CENDL-2 を公開 (49 核種) 米国、ENDF/B-VI 完成 (320 核種)

年	月	シグマ・核データ評価研究Gr 関係	月	関連事項
	11	始 「1991年核データ研究会」(28, 29日、原研東海)	○	京大炉に鉛スペクトロメータ(KULS)を設置
1992 平4	5 11	NEANSC「FP核データ専門家会議」(25~27日、原研東海) 「1992年核データ研究会」(26, 27日、原研東海)	2 7 9	NEA Data Bank、JEF-2.2公開(314核種) ITER工学設計活動開始 JASPER終了
	○	JENDL-3.2のための作業	○	ロシア、BROND-2公開(121核種)
	○	「核図表1992年版」作成(1993年2月発行)	○	核分裂炉50周年
1993 平5	2 4 4 7 11	「シグマ委員会創立30周年講演会」(12日、富国生命ビル) 原研の組織改正で、核データセンターが、原子炉工学部に入る 高エネルギー評価WGを設置し、高エネルギー評価を開始 「共分散専門家会議」(15, 16日、原研東海) 「1993年核データ研究会」(18, 19日、原研東海)	1 1 5 9 9 10	NEA Data Bank、JEFを完全公開にする 「あかつき丸」東海港入港(5日) NEA Think Tank会合(27日、Paris) 原研リニアック運転終了、年末に閉鎖、翌3月解体撤去完了 GLOBAL'93開催(12~16日、Seattle、このシリーズの一回目) FNSを用いた日米核融合協力研究終了
			○	ロシア、BROND-2.2完成(121核種)
			○	中国、CENDL-2改訂(54核種)
1994 平6	4 6 11	「核構造・崩壊データ専門部会」が「核燃料サイクル専門部会」と改称 JENDL-3.2公開(340核種) 「1994年核データ研究会」(17, 18日、原研東海)	3 4 4 5 6 12	International Science and Technology Center (ISTC)発足(Moscow) 高速炉原型炉「もんじゅ」初臨界(5日) 核反応データセンター協力調整に関する助言者会議(25~27日、Paris) Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology(9~13日、Gatlinburg) 原子力委員会、原子力長期計画を発表 NEA Data Bankのホームページ開設
			○	米国、NNDCホームページ開設
			○	米国、ENDF/B-Vを完全公開
			○	EC、EFF-2.4を公開
			○	「医学物理データブック」が発行される
1995	1	「第2回高エネルギー核データ専門家会	2	原研、STACY初臨界

年	月	シグマ・核データ評価研究G r 関係	月	関 連 事 項
平 7		<p>議」(26, 27 日、原研東海)</p> <p>2 メーリングリスト JNDCmail の試験運用開始 (1 日)</p> <p>2 核データセンターのホームページ開発開始 (6 日)</p> <p>3 核データセンターのホームページを限定公開 (1 日)</p> <p>4 核データセンターのホームページを公開 (3 日)</p> <p>8 WWW 版核図表を作成・公開 (以後毎年更新)</p> <p>11 「1995 年核データ研究会」(16, 17 日、原研東海)</p> <p>11 「日露光核反応データ評価ワークショップ」(14, 15 日、原研東海)</p> <p>11 「第 3 回核融合炉核データ専門家会議」(29, 30 日、原研東海)</p>		<p>5 NEANSC 国際核データ実験活動ワーキングパーティ (WPINDMA) 第 1 回会合 (16~17 日、Paris)</p> <p>6 原研 JPDR 解体</p> <p>10 原研関西研設置</p> <p>12 原研 TRACY 初臨界 (20 日)</p> <p>○ 原子力船「むつ」廃止</p> <p>○ 米国、ENDF/B-VI. 3 を公開</p> <p>○ 中国、CENDL-2. 1 を公開 (67 核種)</p>
1996 平 8		<p>3 JENDL Activation Cross Section File 96 を公開(11 日、233 核種、1246 反応)</p> <p>4 「第 1 回核データインターネットシンポジウム」(8 日~6 月 15 日)</p> <p>5 マイナーアクチニド核データに関する日露ワークショップ (27~31 日、原研東海)</p> <p>11 「1996 年核データ研究会」(21, 22 日、原研東海)</p> <p>○ 「核図表 1996 年版」作成 (1997 年 5 月発行)</p> <p>○ JENDL-3. 2 の問題点を調査 (JENDL-3. 2 問題点検討小委員会)</p>		<p>○ Table of Isotopes 8-th edition</p> <p>○ 米国、ENDF/B-VI. 4 を公開</p>
1997 平 9		<p>4 JENDL-3. 3 開発開始</p> <p>9 「JENDL-3. 2 PLOTS and DATA」CD-ROM を発行</p> <p>11 「1997 年核データ研究会」(27, 28 日、原研東海)</p> <p>○ JENDL-3. 2 重核の遅発中性子データを修</p>		<p>2 IAEA/NDS、FENDL-2. 0 完成</p> <p>5 Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (19~24 日、Trieste)</p> <p>○ IAEA、FENDL-2. 0 を公開</p>

年	月	シグマ・核データ評価研究Gr 関係	月	関連事項
		正し、update file を公開		
1998 平 10	3	「第 3 回高エネルギー核データ専門家会議」(30, 31 日、原研東海)	10	米国、ENDF/B-VI. 5 公開
	4	原研の組織改正で、核データセンターが、エネルギーシステム研究部に入る	11	原研 HTTR 初臨界 (10 日)
	11	「1998 年核データ研究会」(19, 20 日、原研東海)	○	IAEA、核データモデル計算のための標準入力パラメータライブラリーRIPL-1 完成
	○	原研、シグマ研究委員会見直し		
1999 平 11	1	「遅発中性子核データ専門家会議」(28, 29 日、原研東海)	6	米国、ENDF/B-VI. 6 を公開
	4	新たなシグマ研究委員会規程が施行される (1 日)	9	「第 10 回原子炉ドシメトリ国際シンポジウム」(12~17 日、大阪)
	4	JENDL Fusion File 99 を公開	9	日本原子力学会に標準委員会設立 (22 日)
	6	『核データニュース』通巻 100 号発刊	9	JCO 臨界事故発生 (30 日)
	7	「JENDL Dosimetry File 99」完成	10	「第 9 回放射線遮蔽国際会議 (ICRS-9)」(17~22 日、つくば)
	10	「光核反応ワークショップ」(25~26 日、原研東海)		
	11	「1999 年核データ研究会」(18, 19 日、原研東海)		
	○	シグマ検討小委員会を編成し、核データ部会設立について検討 (10~12 月)		
2000 平 12	6	NEA 核データ評価国際協力ワーキンググループパーティ (WPEC) 会合 (20~21 日、原研東海)	3	「日本原子力学会核データ部会」発足 (30 日)
	11	「2000 年核データ研究会」(16~17 日、原研東海)	4	理研、核データの国際協力から撤退
	○	JENDL FP Decay Data File 2000 完成 (1229 核種)	4	米国、ENDF/B-VI. 7 を公開
	○	「核図表 2000 年版」作成 (2001 年 6 月発行)	11	CERN の n_TOF 運転開始
			○	理研、新潟大、東北大グループ、魔法数 16 を発見
			○	サイクル機構、高速炉用統合炉定数 ADJ2000 を開発
2001	2	「炉定数整備専門家会議」(22~23 日、原	10	米国、ENDF/B-VI. 8 を公開

年	月	シグマ・核データ評価研究G r 関係	月	関 連 事 項
平 13	10	研東海) 「ND2001, Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology」(7~12日、つくば)	10	中国、CENDL-3のFP核種(101核種)のデータを公開
			12	特殊法人等整理合理化計画が閣議決定(19日) ○ 原研・KEK、大強度陽子加速器の施設建設開始
2002 平 14	3	JENDL-3.3完成	4	NEA Data Bank、JEFF-3.0を公開(340核種+5熱中性子散乱則データ)
	5	JENDL-3.3のプレス発表とデータ公開(10日、337核種)		
	9	「JENDL-3.3 DATA & FIGURES」CD-ROMを発行		
	11	「2002年核データ研究会」(21~22日、原研東海) ○ 『核データニュース』のpdf化開始 ○ 次期 JENDL について検討(次期 JENDL 検討小委員会)		
2003 平 15	2	『核データニュース』シグマ委員会40周年記念号		
	2	JENDL/AN-2003公開		
	11	「2003年核データ研究会」(27~28日、原研東海)		
2004 平 16	3	JENDL/HE-2004公開	9	ND2004 - Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (September 26 - October 1, Santa Fe, New Mexico, USA)
	3	JENDL/PD-2004公開		
	3	「Japanese Evaluated Nuclear Data Library Version 3 Revision-3: JENDL-3.3」日本原子力学会賞論文賞を受賞(29日)		
	11	「2004年核データ研究会」(11~12日、原研東海) ○ 「核図表2004年版」作成		
2005	6	JENDL/AN-2005公開	5	NEA Data Bank、JEFF-3.1を公開

年	月	シグマ・核データ評価研究G r 関係	月	関 連 事 項
平 17	9 10 10 11	原研「シグマ研究委員会」終了 核データセンターが「核データ評価研究グループ」となる（1日） 『核データニュース』No. 82 から印刷版をやめ、WWW 上での掲載のみとなる 「2005 年核データ研究会」（17～18 日、原子力機構東海）	10	独立行政法人日本原子力研究開発機構発足（1日）
2006 平 18		原子力機構「シグマ委員会」が設置される	12	米国 NNDC、ENDF/B-VII.0 を公開
2007 平 19	3 12	「統合核データ評価コード CCONE の開発」が日本原子力学会賞特賞・技術賞、「核子-原子核に対する広域的な光学模型ポテンシャルのチャンネル結合法による統一記述」が同奨励賞を受賞（26日） JENDL/HE-2007 公開（28日、106核種）	1 4 11	「2006 年度核データ研究会」（25～26日、テクノ交流館リコッティ、これ以降は日本原子力学会核データ部会が主催） ND2007 - Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (April 22 - 27, Nice, France) 「2007 年度核データ研究会」（29～30日、テクノ交流館リコッティ）
2008 平 20	3 6	JENDL/AC-2008 公開（24日、79核種） NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ（WPEC）会合（5～6日、原子力機構東海）	5 11 12	J-PARC/MFL 中性子源に初ビーム（30日） 「2008 年度核データ研究会」（20～21日、テクノ交流館リコッティ） J-PARC/MFL 利用開始（23日）
2009 平 21	4	「日本最初の評価済核データライブラリ JENDL-1」が日本原子力学会原子力歴史構築賞を受賞（21日）	2 2	OECD/NEA Data Bank、JEFF-3.1.1 を公開（25日） 日本原子力学会創立 50 周年
2010 平 22	2 3 3 4 5	シグマ委員会の名称を変更することになる 「JENDL アクチノイドファイル 2008」が日本原子力学会賞技術賞を受賞（26日） JENDL-4.0 完成（406核種）（31日） JENDL-4.0 完成のプレス発表（15日） 原子力機構「シグマ委員会」を「JENDL 委	3 4	『核データニュース』の編集が日本原子力学会核データ部会に移る ND2010 - Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (April 26-30, Jeju Island, Korea)

年	月	シグマ・核データ評価研究Gr 関係	月	関連事項
		員会」と改称 5 JENDL-4.0 を公開 (28 日、406 核種) 9 「JENDL-4.0 DATA & FIGURES」DVD-ROM の 配布開始(9 日) 11 「核図表 2010 年版」作成		
2011 平 23			12	ENDF/B-VII.1 公開
2012 平 24	3 7 9	「JENDL-4.0」が日本原子力学会賞技術 賞・特賞を受賞 JENDL/FPD-2011 及び FPY-2011 公開 JENDL-4.0u 公開開始	3	JEFF-3.1.2 公開
2013 平 25	2	『核データニュース』シグマ委員会 50 周 年記念号		